

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	ほしとたんぽぽ
-----	---------

取組の名称	子ども親も、つながりながらともに生きていく地域づくり
実施場所	鷺沼駅周辺
対象地域	宮前区鷺沼周辺エリア
対象地域の特色・課題	<p><b>【地域の特色】</b>  鷺沼エリアは、都心からも近く、便利なエリアでありながらも、駅から少し歩けば畑や自然が広がり、公園も多く、環境もよいため、子育て世帯も多い街である。  また鷺沼駅周辺は、鷺沼再開発事業により市民が安心・快適な街づくりを進めている。  以上のように鷺沼は、子育て世帯が多く住み、鷺沼再開発事業により、さらに人が集まりやすくなるエリアである。</p> <p><b>【地域の課題】</b>  子育て世代が多い一方で、核家族化が進み、子育てをする際に地域の中で孤立を感じる家庭も少なくない。特に、子どもの発達がゆっくりであったり、集団の中で過ごすことに苦手意識を持っていたりする場合、幼稚園や保育園、学校などになじめず、行き場を失い、家庭の中で親子関係が煮詰まることも多くある。  行き場を失った保護者や子どもたちは、社会から切り離された気持ちになりやすい。人とのかかわりが少なくなることで子どもが、本来得られるはずの成功体験やひとや物事との触れ合いが得にくくなる。  発達に特性があるどんな子どももその子たち一人ひとりともつ素敵さや魅力は多くある。</p>

	<p>自分のやりたいこと、好きなことをとことん追い求められる環境が用意されれば、子どもたちは日々を楽しく充実して過ごすことができ、成功体験を多く積み重ねられ、おのずと自己肯定感が育まれていく。自己肯定感を取り戻した子どもたちは再びさまざまなことに意欲をもちはじめ、挑戦し、何事に対しても「やり抜く力」を手に入れることができる。</p> <p>そのために、地域社会の中で「この子はこの子のままですてき、大丈夫」というまなざしを持ち、多様な価値観を受容することのできるおとなの存在が必要であり、そういったおとなのいる居場所が大切である。</p> <p>しかし、地域の中でそのような居場所がまだ多くはなく、孤立感を抱える家庭にとって課題となっている。</p>
<p>取組の趣旨・目的</p>	<p>上記課題に向き合うべく、これまで「子どもの一時預かり」や、この活動を通して出会った保護者からの声をきっかけにスタートした主に学校への行き渋り、または不登校の子を持つ保護者が集い、自由に話をできる場づくりをしながら、子どもや保護者に寄り添う活動を行ってきた。</p> <p>利便性が高く、子育てしやすいと感じている地域で、孤立して子育てをしている親子を目の当たりにした。</p> <p>そのため第一に、子どもたちにとって、「自分にとって“行きたい”」場、「楽しい、うれしい」場を創作し、子どもたちの様々な特徴を認め合える環境を作ることで、出会った子どもたちが子どもたち自ら「わたしはわたしのままでいい」という気持ちを手に入れることを取組みの目的とする。</p> <p>第二に、主に子どもの発達や成長に悩んだり、学校や地域の中で居場所を見いだせず、子育てに悩む保護者の方とともに、出会い、つながり、安心して語り合う場を作り、保護者の理解と安心が広がることを取組みの目的とする。</p> <p>第三に、地域の中で、孤立した親子がひと家庭でも多く、「私たちはわたしたちのままでいい」、「幼稚園（保育園）や学校に行かない選択をしても、子どもたちは一人ひとりとてすてき」という感覚を手に入れられることを目的とする。</p>

<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>① 子どもの居場所 主に第 1.2.3 火曜日 10 時～12 時 主に学校に居場所を見いだせない子どもたちを対象に、自分の好きなことや挑戦したいことをしながらともに過ごしていく 今年はずみ作り、桜染め等</p> <p>② 親 Caffè（保護者の会） 主に第 4 火曜日 10 時～12 時 学校に行っていない、または行き渋っている子どもの保護者の方が、出会い、語り、ともに希望を探していく時間</p>		
<p>参加者の年代</p>	<p>① 小学生 ② 保護者</p>	<p>定員 (1 回あたり)</p>	<p>① 1～3 人 ② 1～10 人</p>
<p>実施頻度</p>	<p>① 月 3 回 ② 月 1 回</p>	<p>活動日数 (年間)</p>	<p>51 日</p>
<p>スタッフ体制</p>	<p>① スタッフ 1 名 ② スタッフ 1 名、ボランティア 1 名</p>		
<p>連携する団体・連携の手法</p>	<p><b>【連携する団体】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援機関</li> <li>・区内の農園、食堂</li> <li>・SNS を通じて賛同、協力を得られる個人または団体等</li> </ul> <p><b>【連携の手法】</b></p> <p>これまで出会ってきた家庭や子どもたちと、多種多様な困りごとや悩みを多く共有してきた経験がある。困りごとや悩みをともに共有しあいながら、地域と家庭と一緒に相談や情報収集を必要性に応じて行うことにより、他団体とも連携し、子どもたちにとっての最善を地域の中で考え、行動する。</p>		
<p>取組実施により見込まれた効果</p>	<p><b>【子どもの居場所】</b></p> <p>地域の中で、子どもが誰もが受け入れられる場や大人に出会い、ともに過ごすことで子ども自身の安心が広がっていった。子どもにとって、「やりたい」や「楽しい」を実現し、優しい気持ちで受け入れられる場にいられることで、「ありのままの自分でいいんだ」、「人を信じていいんだ」などの前向きな気持ちが芽生えた。また、居場所での成功体験や様々な経験を通じて、これまで以上に社会に興</p>		

味を持つことができ、挑戦してみようとする思いを持てるようになった子どもがいた。

**【親 Café】**

地域の中で子育てや我が子に関して悩みを持つ保護者同士が会うことができ、悩みを共有し、胸の内を打ち明けることができるきっかけとなった。

他愛もない話も含めて、率直に想いを共有していると、自然と子育ての中のしんどさを忘れて共に笑いあうことができ、気持ちがラクになる保護者が多くいた。

また、年齢や状況の異なる子どもを持つ保護者の話を互いに聞きあうことで、かつての子育てを振り返ることができたり、我が子の将来を想像したりできて、子育てに前向きな気持ちを持つことができた保護者もいた。